

アルミ輸出はいずれもプラスに

輸入はいずれもマイナス

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

一月前半は、HSBC中国製造業購買担当者指数(PMI)が五一・五と一九カ月ぶりの高水準だったことや、中国貿易統計で輸出が一四・一%増と予測を大きく上回るなどのプラス材料もあったが、反面十二月の中国消費者物価指数がプラス二・五%となった事による追加景気刺激策期待の後退が台頭して、LMEアルミ相場の上げ幅を抑え二、〇六〇ドル(現物後場買い)と約二四ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は十二年の中国GDPが七・九%増と一三年ぶりに八%を割り込んだ事や中国直接投資額が三・七%減に落ち込むなど悪材料も出たが、一月のユーロ圏総合PMIが四八・二と予測の四七・五を上回った事、十二月の独ZEW指数がプラス三一・五と予測の一・二を大きく上回ったこと、一月のHSBC中国製造業購買担当者指数PMIが五一・九と二年ぶりの高水準だった事などを好感し、二月四日現在、LMEアルミ相場(現物後場)は二、〇八五ドルと二〇ドル上昇してのスタイトとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一七・二%減の七〇万二、二八五台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除)は前年比一二・九%減の二二万九、三三三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一〇%増の七万五、九四四戸であった。

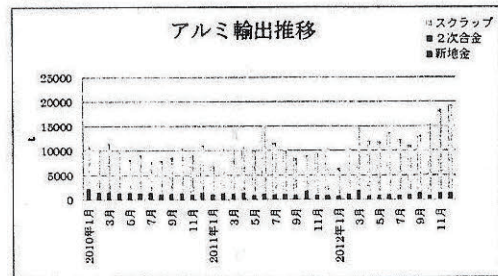
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月一二・七%増の一四二t、二次合金が六一・九%増の一、一九三t、スクラップが八七・三%増の一、一三三t。

輸入は新地金が前年比二一・三%減の一、五五、七四三t、二次合金が一九・六%減の八万〇、九二四t、スクラップが一・九%減の六七六t、合金スクラップは五二・五%減の二、三〇二t。

輸出	10月	11月	12月
新地金	117 t	229 t	142 t
前年比	-25.4%	+37.1%	+12.7%
二次合金	650 t	1041 t	1193 t
前年比	-60%	+45.4%	+61.9%
スクラップ	14697 t	17139 t	18133 t
前年比	+102%	+95.2%	+87.3%

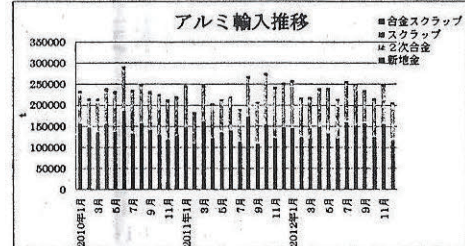
輸出推移



出典 財務省貿易統計

輸入	10月	11月	12月
新地金	12万3406 t	15万4904 t	11万5749 t
前年比	-19.6%	+28.6%	-21.3%
二次合金	8万7916 t	9万2998 t	6万2024 t
前年比	-24.5%	-22.7%	-19.6%
スクラップ	1181 t	631 t	676 t
前年比	+40.1%	+13.1%	-11.9%
合金スクラップ	3890 t	3091 t	2302 t
前年比	-31.9%	-45.9%	-52.5%

輸入推移



出典 財務省貿易統計

【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三・四%減の一五万四、四五七t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・五%減の六万二、六五六tであった。(八面に続く)

◇KLT Mすず相場

七日

二四・八五〇

四七

米ドル
トン

軽圧品、二次合金とも生産減少

ALME
ミ上値は二、三〇〇ドルも

(二面より続く)

住宅関連は先月に続き三カ月連続二ケタ増加、前年比一〇％増(季節調整済み前月比二・九％減)の七万五、九四四戸と復興需要も伴って大幅増。

自動車関連のアルミ二次合金生産は引き続き前年比三・五％減と四カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。

欧米や中国での自動車販売回復期待での需要増からの減少幅縮小との見解。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前年比三・四％減と再び悪化。

住宅市場の回復を受けたものの家電の悪化が足を引っ張ったとの見解。

輸出は新地金が前年比一二・七％増の一四二t、二次合金が六一・九％増の一、一九三t、スクラップが八七・三％増の一、八、一三三t。

内需低迷や輸出が好調な韓国への輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比二一・三％減の一、一五、七四三t、二次合金は一九・六％減の八万〇、九二四t、スクラップは一・九％減の六七六t、合金スクラップは五二・五％減の二、三〇二t。

アベノミクスによる円安からの輸入塊の割高感から減少したとの見解。

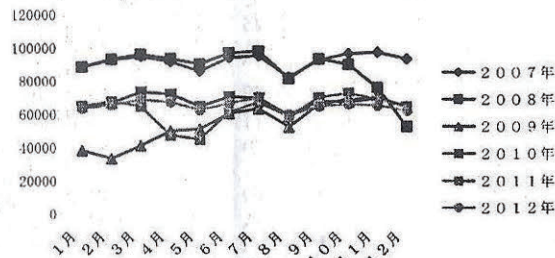
原料需給に関しては先月に続き新設住宅着工数が前年比一〇％増と四カ月連続大幅回復の兆しあり、また最大需要家の自動車メーカーも、米国の景気回復期待や中国販売の回復期待、アベノミクスによる円安からの国内塊への買いシフトなど明るい材料もあるが、現在は、三月末の決算や政府の経済対策などにおいて具体的な予算、それに伴う需要がまだ決定していないことからメーカー買い気薄。

LMアルミ価格に関して主なテーマである「米財政の崖問題」が五月末まで先送りされたことでリスキーな展開は考えにくくまた新規プラス材料は望めないものの、欧州懸念の後退や、米経済指標の好転、アベノミクスによる日本経済回復期待によるセンチメントの好転から上値はもう一段高の二、三〇〇ドル。

下値は直近二カ月間二、〇〇〇ドル近辺を推移していることから下値は堅く、仮に欧州債務問題の再燃があったとしても想定内である可能性が高く押し目買いがあるとの予測から二、〇〇〇ドル。

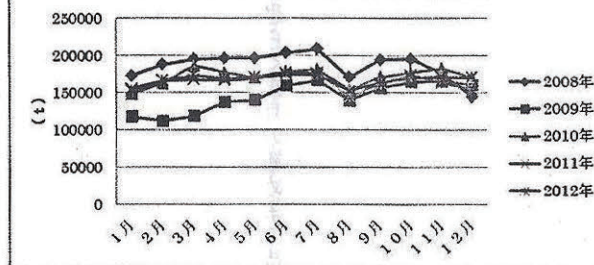
スクラップ価格については一月後半価格から据え置き、もしくは五、一〇円程度の値上げがあるとの予測。

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

【見通し】

一月は、米財政の崖問題(減税の終了と自動歳出削減が同時に起こり米個人消費・経済に悪影響を与える)に関して五月末日まで延長法案が可決されたため、一旦は危機は遠のいたものの今後の動向に注視。

自動車生産は前年比一七・二％減とついに二桁悪化、販売の方も一二・九％減とまだ減少基調。